

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成25年5月7日(火)~17日(金)

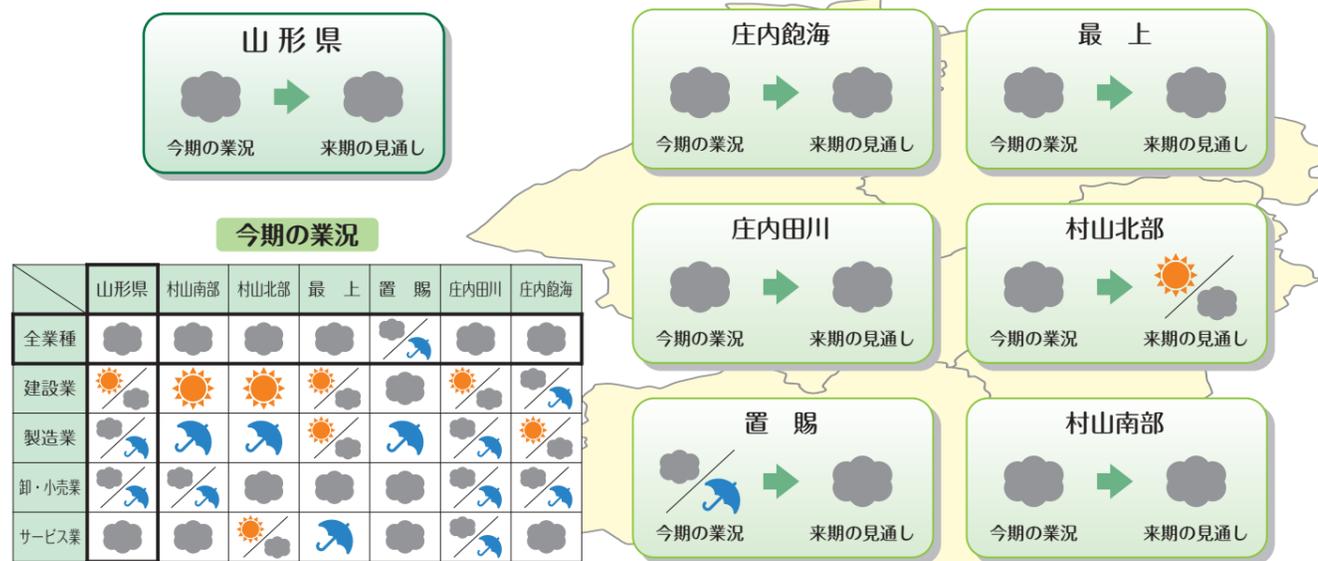
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形744社、秋田643社
有効回答数 山形504社、秋田469社
回答率 山形67.7%、秋田72.9%

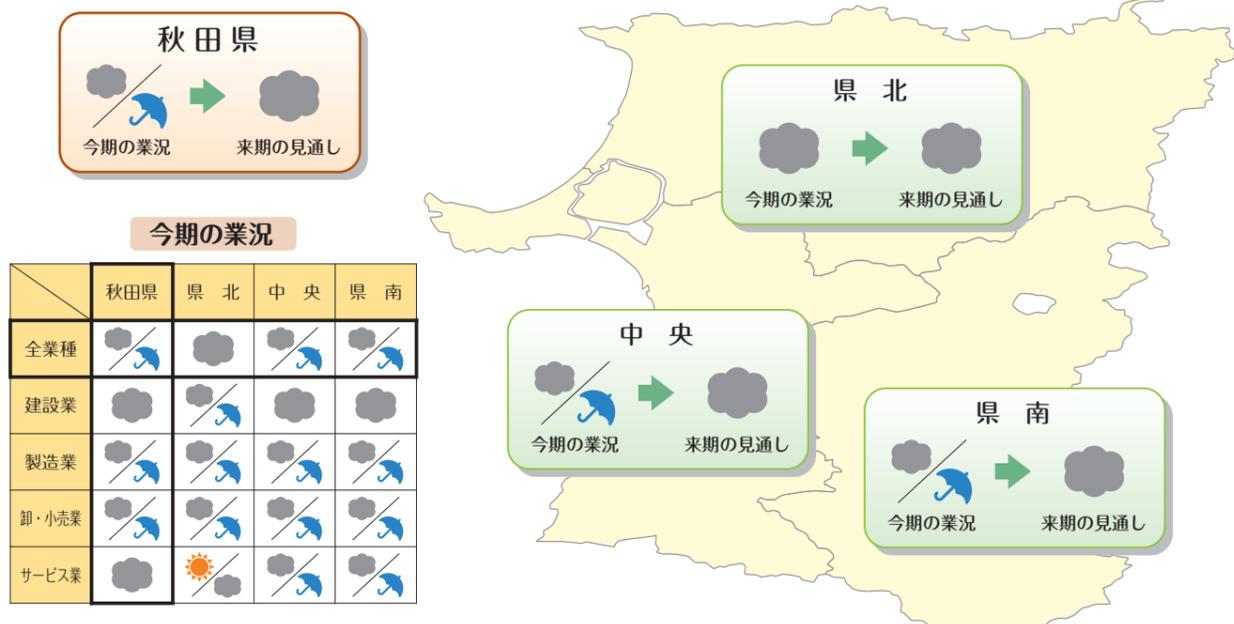
特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI ≥ 30	30 > DI ≥ 10	10 > DI ≥ -10	-10 > DI ≥ -30	-30 > DI

景気天気図

第35回「山形県内企業の景気動向調査」



第8回「秋田県内企業の景気動向調査」

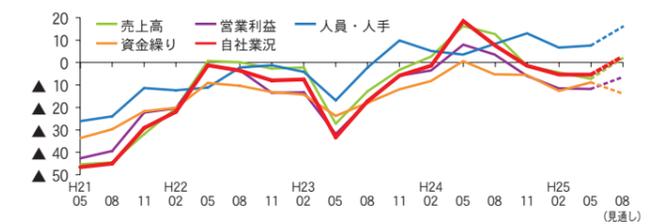


▶ 自社業況の動向

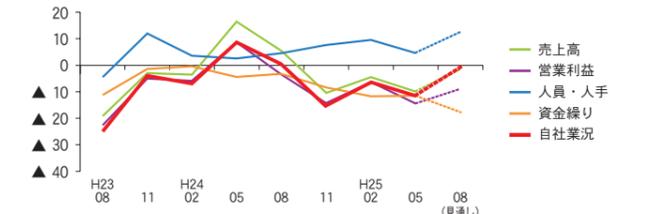
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲5.8(前回調査比0.2ポイント下落)と悪化幅は和らいでいるものの、4期連続の悪化となり、依然として県内景気には後退感がみられる。先行き見通しは2.2(今回調査比8.0ポイント上昇)と回復し、DI値がプラスに転じる見込み。円安・株高傾向などが好影響を与えることを期待する結果と考えられる。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲11.6(前回調査比5.1ポイント下落)とマイナス幅が拡大して2期ぶりの悪化となり、足元は依然として弱めの動きとなっている。先行き見通しは▲0.7(今回調査比10.9ポイント上昇)と再び改善が見込まれている。円安や株高などを映じて、需要回復への期待感がうかがえる。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

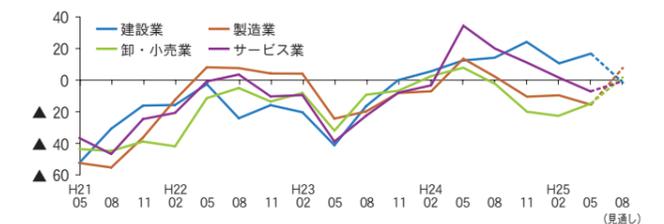


▶ 業種別の動向

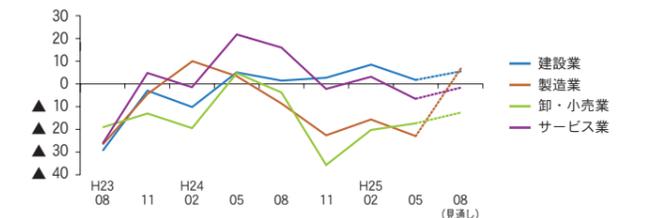
山形県の業況を業種別にみると、建設業と卸・小売業が回復した一方で、製造業とサービス業が悪化となった。製造業とサービス業の悪化要因としては、円安による原材料費や燃料費の高騰が考えられる。先行き見通しは建設業以外のすべての業種で回復の見込みとなっている。

秋田県の業況を業種別にみると、卸・小売業で小幅な改善となったものの、建設業が依然「良い」超ながら悪化したほか、製造業とサービス業でも悪化となった。建設業では公共工事の持ち直し基調もあり底堅い状況ながら、製造業では原燃料高などを映じて低調な動きとなっている。先行き見通しは全業種で改善の見込みとなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、村山南部で▲8.5(前回調査比5.4ポイント下落)、村山北部で▲7.1(前回調査比1.7ポイント下落)、最上で5.7(前回調査比20.8ポイント下落)、置賜で▲10.6(前回調査比14.4ポイント上昇)、庄内田川で▲7.8(前回調査比1.5ポイント上昇)、庄内飽海で▲2.1(前回調査比6.8ポイント上昇)となり、最上地区の悪化幅が大きいのは、卸・小売業とサービス業の大幅な悪化に起因している。先行き見通しはすべての地域で回復の見込みとなっている。

秋田県の業況を地域別にみると、県北で▲8.2(前回調査比9.7ポイント下落)と2期ぶりに悪化し、中央で▲10.2(前回調査比2.1ポイント下落)、県南で▲15.6(前回調査比7.4ポイント下落)とともに前回調査よりマイナス幅が拡大しており、すべての地域で悪化となっている。先行き見通しはすべての地域で改善の見通しとなっている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

